

インターバンクの声（2016 年 11 月 2 日）

米大統領選で共和党候補ドナルド・トランプ氏が当選するようなことになれば、市場は円買い・ドル売りに反応、一気に 3 円から 5 円くらい円高が進むとの予想も少なくない。先週末、米連邦捜査局 (FBI) が民主党候補ヒラリー・クリントン氏の国務長官時代の私用メール問題に対しての再捜査を表明して以来、確かにクリントン氏の楽勝ムードからドル買いに傾き始めていた相場の流れに変化が出始めたが、それでもまだドルの反発も見られていた。しかし、昨夜は米紙ワシントン・ポストと ABC テレビが最新の世論調査でついにトランプ氏がクリントン氏を 1 ポイントながら逆転したことを発表、不透明感が増してきた選挙戦の行方を嫌気した市場は早くもドル売りに動き出した。ニューヨーク市場のドル円は、ロンドン市場の高値から 1 円以上ドル売りが進んで 103 円 80 銭台を付け、ユーロ/ドルも 100 ポイント近いドル売りとなった。先月はあれだけ注目したはずなのに、昨夜の米 ISM 製造業景況指数の発表などはほとんど無視された格好だ。どうも足元の市場は一にも二にも米大統領選の行方ありきの様相で、減多にないことだが、連邦公開市場委員会 (FOMC) も雇用統計も B 級イベント扱いになるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。